令和6年12月1日

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

八幡平市長 佐々木孝弘

市町村名 (市町村コード)	八幡平市 (214)
地域名 (地域内農業集落名)	寺田 (川原目、上関、荒木田、帷子、寺田、館沢、新田、野口、土沢、若谷地)
協議の結果を取りまとめた年月日	令和6年12月1日 (第3回)

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

- ①担い手が不足している
- ②農地が分散しており、集約化が急務
- ③小区画や変形田が点在している
- ④湿田など条件の悪い農地が多く、規模拡大が困難
- ⑤獣害が増加傾向にある

(2) 地域における農業の将来の在り方

- ・畜産、水稻、野菜等耕種のバランスがほど良い地域であり、耕畜連携のもとにコスト低減を図るとともに循環型農業で安全・安心な農畜産物の生産を目指す。
- ・長芋、ほうれん草等の高収益作物の栽培に取り組み、安定経営に努めていく。
- ・農業生産(6次産業化等)に地域で取り組める方策を検討していきたい。
- ・遊休農地は、集落営農組織と認定農業者とが協力し合い保全とともに有効活用を検討していきたい。
- ・獣害対策として、地域で駆除を検討し、総个体数の適切な管理を目指したい。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	1,371.0 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	1,371.0 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	0.0 ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

農振農用地区内の農地及びその周辺の農地を農業上の利用が行われる区域とし、耕作を継続できなくなった農地については保全・管理を行う区域とする。

注:区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。